

# 日本福祉介護情報学会ニュース

2007年度第3号

2008年1月31日

発行：日本福祉介護情報学会（<http://jissi.jp>）

埼玉県新座市北野1-2-26 立教大学コミュニティ福祉学部 森本研究室内 [jissi-mail@e-wel.ne.jp](mailto:jissi-mail@e-wel.ne.jp)

## 【目次】

1.	第8回研究大会を終えて	1
2.	決算	2
3.	第9回研究大会のご案内	3
4.	学習会のおしらせ	3
5.	学会紀要について	4
6.	事務局から	4
	(編集後記)	4

## 1. 第8回研究大会を終えて

日本福祉介護情報学会理事・第8回研究大会 事務局  
(田園調布学園大学) 村井 祐一

2007年12月9日(日)に日本福祉介護情報学会第8回研究大会が田園調布学園大学にて開催されました。本学での大会開催は2度目でしたが、新校舎での開催であったため、照明の調整や音響の課題などもあって、皆様にはご不便をお掛けいたしました。しかしながら熱心な大会スタッフと65名もの大会参加者のご協力を得て、プログラムも滞りなく進行し、無事閉会することが出来ました。あらためて皆様の大会へのご理解とご協力を心からお礼申し上げる次第です。

大会の内容に関しましては午前中に5件の自由研究発表が行われ、モバイルシニアネット(より手軽で身近なシニアネット)、主治医意見書の管理と活用(重要な情報の管理・運用体制)、大学と地域の連携(Lモードを用いた見守りネットワーク)、夜勤介護職の実態(夜間記録の課題)、福祉経営と部門原価管理情報(福祉サービスの原価に注目した経営手法)など、個性的かつ多様な研究内容が発表されました。

午後の岡本先生の記念講演は、「福祉・介護情報研究の軌跡と展望」として福祉情報研究に対するこれまでの取り組みと、これからの取り組みについてお話しいただきました。福祉実践の科学化・論理化の必要性和、その中でも記録情報が大きな鍵を握っているというお話しを頂くことができました。

シンポジウムでは本大会のテーマでもある「福祉介護情報の新地平を拓く 一情報提供・開示と選択・活用のフロンティア」について討論が行われ、サービス利用者の立場に立った情報発信について幅広い視点からの実践状況と熱心な討論が行われました。

シルバーサービス振興会の久留氏からは、全国一律の基準を定めることによって介護サービスの情報がはじめて客観化可能となる点について述べられました。また特別養護老人ホーム王子光照苑の水野施設長からは、毎日更新されるホームページや充実した広報誌などを通じた情報公開・広報活動は信頼の貯金であり、開かれた施設がコーポレートアイデンティティであると報告されました。NPO法人Uビジョン研究所の飯村氏からは、利用者の立場に立った施設評価・認証の必要性和、その結果に応じた施設改善策および職員教育プログラムについて報告されました。また宮前区ボランティアすずの会の鈴木氏からは、住民自身の手による福祉情報の収集と提供は、住民が本当に必要とし、役立つ情報提供が可能な反面、改めてボランティアだけでの継続が困難である点などに

いて報告がありました。

各シンポジストの立場・視点からの情報提供はいずれも重要な役割を果たしており、あらためて福祉情報の発信源は多元的である必要性を感じました。一方で、情報の受け手側から考えると、これらの情報は一元化され総合的に提供される必要性も感じられるシンポジウムとなりました。

なお、本大会は「介護保険情報（発行：社会保険研究所）2008年1月号」でもご紹介いただきました。

多くの方々のご協力を得て、素晴らしい大会が開催できた事を心から嬉しく思っております。皆様、本当にありがとうございました。また、今後とも本学会をよろしくお願い申し上げます。

## 2. 決算

日本福祉介護情報学会理事・事務局  
(立教大学) 森本 佳樹

2007年12月9日（日）の日本福祉介護情報学会第8回研究大会において会員総会が開催され、2006年度事業報告・決算が承認されましたので、スペースの関係上、決算だけを報告します。

《収入の部》

(単位：円)

項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
1 入会金収入	140,000	14,000	126,000	
1-1 正会員	30,000	12,000	18,000	@3,000×4人
1-2 学生会員	10,000	2,000	8,000	@2,000×1人
1-3 法人会員	100,000	0	100,000	@100,000×0社
1-4 賛助会員	0	0	0	@30,000×0人
2 会費収入	1,190,000	596,000	594,000	
2-1 正会員	630,000	372,000	258,000	@6,000×62人分(実49人)
2-2 学生会員	60,000	24,000	36,000	@3,000×8人分(実6人)
2-3 法人会員	500,000	200,000	300,000	@100,000×2社
2-4 賛助会員	0	0	0	@30,000×0人
3 参加費収入	50,000	81,000	△ 31,000	
3-1 参加費収入	50,000	81,000	△ 31,000	9/9 学習会
4 雑収入	1,000	7,469	△ 6,469	
4-1 雑収入	1,000	7,469	△ 6,469	預金利子+紀要等頒布+大会剰余金
5 繰越金	3,014,000	3,611,723	△ 597,723	2005年度決算額
5-1 基本財産繰越金収入	1,014,000	1,054,000	△ 40,000	
5-2 前年度繰越金収入	2,000,000	2,557,723	△ 557,723	
合計	4,395,000	4,310,192	84,808	

《支出の部》

項 目	予 算	決 算	増 減	摘 要
1 事業費	1,150,000	599,882	550,118	
1-1 理事会開催費	350,000	53,580	296,420	理事会3回分延2名
1-2 研究大会助成費	350,000	350,000	0	京都
1-3 専門部会費	120,000	0	120,000	HP運営費
1-4 検討会費	0	0	0	
1-5 紀要発行費	230,000	156,050	73,950	第3号印刷・2号発送関連費用
1-6 学習会開催費	100,000	40,252	59,748	

(次頁に続く)

(前頁から続く)

2 事務費	191,000	106,480	84,520	
2-1 什器・備品費	11,000	0	11,000	
2-2 印刷費	80,000	77,175	2,825	
2-3 通信費	70,000	29,305	40,695	ニューズレター送料他
2-4 事務補助員費	30,000	0	30,000	
3 繰越金	1,154,000	3,603,830	△ 2,449,830	
3-1 基本財産繰越金	1,154,000	1,068,000	86,000	入会金及び入会金繰越充当
3-2 次年度繰越金	0	2,535,830	△ 2,535,830	
4 予備費	1,900,000	0	1,900,000	
合計	4,395,000	4,310,192	84,808	

### 3. 第9回研究大会のご案内

日本福祉介護情報学会理事・第9回研究大会 事務局  
(北翔大学) 林 恭裕

2008年度の第9回大会は、北海道で開催されることになりました。

開催時期は、雪の降る前のぎりぎりのところで10月中旬から下旬に開催する予定です。会場は、北翔大学です。とはいってもご存知ない方がほとんどだと思いますが、札幌市近郊の江別市にある人間福祉学部と生涯学習システム学部という2学部からなる小規模な大学です。札幌の副都心(?) JR新札幌からバスで15分ほどのところにあり、新千歳空港からは新札幌駅まではJRで27分。新札幌駅から札幌駅へも快速で9分という利便さです。

北海道は広域なため、早くから農業や自治体等情報化に取り組んでいます。福祉関係は停滞気味です。学会員もいまのところ2人ですが、第9回大会を機に北海道の会員の倍増(4人?)をめざしたいと思います。ぜひ多くの方にお越しただいて、新しい風を吹かせたいものだと思っています。

大会の詳細は、これからですが、北海道らしさが少しでも出せたらなと考えています。ご期待ください。

### 4. 学習会のお知らせ

日本福祉介護情報学会理事・事務局  
(立教大学) 森本 佳樹

厚労省では、「社会保障カード(仮称)の在り方に関する検討会」(座長:大山永昭東工大教授)を設置し(第1回会合:2007年9月27日)、2007年7月26日にIT戦略本部が決定した「重点計画-2007」において提唱された、年金手帳・健康保険証・介護保険証などの機能を併せ持つ社会保障カード(仮称)の2011年度の導入に向けて、検討が始められています。しかし、これまでの経過を厚労省のホームページなどで見ても、まだまだ総論的な論議が中心で、運用をめぐるの論議や、福祉や介護サービスの利用を巡るの論議は、あまり行われていないように見受けられます。

社会保障カード(仮称)が実際に導入され、運営を開始するにあたっては、こうした点に十分注意しておかなければならないことは、介護保険の請求事務の電子化を巡る混乱からも明らかなことと思います。

こうした混乱を避け、望ましい運用を考えるうえで、福祉と介護の情報化に関する蓄積と会員の経験から学び、社会保障カード(仮称)の導入にあたってどのような点に配慮すればよいかについて議論し、必要であれば政策提言を行うことは、本学会に求められる使命ではないかと考えます。そしてそのためには、社会保障カード(仮称)について、その背景、ねらい、現在進められている議論の内容などについて学習する必要があると考え、下記の要領で学習会を開催することになりました。

会員の積極的な参加をお待ちしています。

《テーマ》「社会保障カードとは何か? (仮題)」(第1回「社会保障カード」学習会)

《日 時》2008年3月22日(土)午後1時30分~4時30分

《会 場》立教大学池袋キャンパス5号館5324教室

《内 容》(予定)

講義1: IT新改革戦略「重点計画-2007」と社会保障カード(仮題)

講師: 内閣官房IT担当室(交渉中)

講義2: 社会保障カード(仮称)と福祉・介護の情報化戦略(仮題)

厚生労働省社会保障カード推進室(交渉中)

## 5. 学会紀要について

日本福祉介護情報学会理事・紀要編集委員長  
(立命館大学) 生田 正幸

学会研究紀要「福祉情報研究」第4号の刊行が遅れておりますことを深くお詫びいたします。「福祉情報研究」は、経費節約のため、担当理事がページレイアウトなど全ての編集作業を行っておりますが、非常に多忙な状況に陥り、このような事態になってしまいました。掲載論文執筆者をはじめ会員各位に重ねてお詫びいたします。今しばらくの猶予をいただき、年度内にはお届けできるような作業を進めてまいりたいと思います。

今号は京都で開催された第7回研究大会のテーマ「福祉・介護の実践としての情報の活用 - 記録をめぐる新たな取り組み -」をタイトルに、福祉情報論のパイオニアである同志社大学名誉教授の岡本民夫先生より「情報としての記録への挑戦」と題する巻頭言をいただき、投稿論文として、大原ゆい会員(立命館大学)による「社会福祉実習記録の自由記述文分析による実習の効果と成果の客観的把握の試み」、小川晃子会員(岩手県立大学)による「社会福祉学部生の情報活用実践力」、関口洋明会員(立命館大学大学院)による「福祉サービスの選択に必要な利用者支援に関する実践とその課題 ~ケース経過記録分析の試み~」の掲載を予定しています。

なお、すでにご承知かと思いますが、「福祉情報研究」は、投稿論文について査読制度を導入しています。近頃では、研究業績として査読審査された論文を求められることも多くなっていますので、会員の皆様の積極的なご投稿をお待ちしています。ご投稿については、学会事務局宛

([jissi-mail@e-wel.ne.jp](mailto:jissi-mail@e-wel.ne.jp)) にメールにてお問い合わせください。

## 6. 事務局から

日本福祉介護情報学会理事・事務局  
(東京都社会福祉協議会) 須永 誠

### ■会員加入状況 (2007年12月末日現在)

個人会員 110名 / 学生会員 34名 / 法人会員 3法人 (登録 4名)

### ■2007年度会費の請求

本年度新規入会者、及び、1月15日現在で2007年度等の学会費未入金の会員に対して、会費請求文書を同封いたしましたので、ご送金方をお願いいたします。

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

(編集後記) 今年度はニュースレターを3回発刊することができました。理事の皆様のご協力のおかげと、感謝しております。引き続き2008年度も、春号(4月)・秋号(9月)・冬号(1月)の3回、発刊する予定です。

岩手は「真冬日」が続いています。時節柄、皆様におかれましてはくれぐれもご自愛ください。

日本福祉介護情報学会理事・ニュースレター担当  
(岩手県立大学) 小川 晃子